

第5章

施策の体系



5-1

戦略および実施施策一覧

(1) インバウンド観光及びサステナブルツーリズムなどの多様なツーリズム取組戦略 (基本方針1)

	戦術	施策内容	前計画との関係	短期	中・長期
1	インバウンド観光客のニーズに対応した観光推進を行う	① 地域資源の磨き上げと開発による魅力向上（創生）※1	継続		●
		② ナイトタイムエコノミーへの取組強化	新規	●	
2	多様なツーリズムへの取組による観光客増を実現する	① 食資源を活用したガストロノミーツーリズムの推進及び酒蔵を活用した誘客促進	新規		●
		② 自然資源を活用したアドベンチャーツーリズムの推進	継続		●
		③ スポーツツーリズム、アートツーリズム、コンテンツツーリズムの推進（創生）※1	新規/継続		●

(2) 高付加価値化による観光消費額向上及び関係人口創出戦略（基本方針2）

	戦術	施策内容	前計画との関係	短期	中・長期
1	体験プログラムの高付加価値化及び事業者間連携による販売力強化を実現する	① 体験プログラムの高付加価値化の実現	継続	●	
		② 事業者間連携による売上の拡大	新規	●	
2	宿泊施設の多様化等を実現して滞在型観光を推進する	① 宿泊を伴う滞在型観光への取組強化	継続	●	
		② 多様な宿泊スタイルに合わせた宿泊施設の整備	新規		●
3	観光客の販売機会損失を減少するための新たな仕組みを構築する	① 新たなシステムによる事業者の販売機会損失の減少	新規	●	
		② 流水ブランドの質的变化の推進	新規		●
4	関係人口の創出・拡大を実現して来訪、非来訪を問わず消費につながる仕組みを構築する	① 旅アト消費の仕組み構築によるふるさと納税や物販の拡大	新規	●	
		② 関係機関との連携による関係人口の創出・拡大（創生）※1	継続	●	
		③ オホーツク網走マラソンをきっかけとした誘客促進及び関係人口の拡大（創生）※1	継続	●	

(3) 観光受入基盤強化及び宿泊税を活用した持続可能な観光の推進戦略(基本方針3)

	戦術	施策内容	前計画との関係	短期	中・長期
1	労働力不足や二次交通対策を実施して観光客の快適な環境整備を実施する	① 労働力不足やオーバーツーリズムを解決する新たなモデル構築の実施	新規	●	
		② 二次交通対策の継続実施	継続	●	
		③ インバウンド観光客への案内の多言語化の実施	継続		●
2	宿泊税の活用などによる観光地づくりを推進する	① 観光人材の確保と実践力向上の仕組み構築及びツールの作成	継続		●
		② 持続可能な観光に対する観光客及び住民評価の実施と共有	継続	●	
		③ 観光地域づくりを推進する組織体制整備（創生）※1	継続	●	

(4) 広域連携・企業連携及び情報発信力と分析力強化戦略（基本方針 4）

	戦術	施策内容	前計画との関係	短期	中・長期
1	広域連携・企業連携によるプロモーションや鉄道利用の推進を実施する	① 広域連携による観光プロモーションの展開（創生）※1	継続		●
		② JR や沿線自治体との連携による鉄道利用観光の促進	継続		●
		③ 航空会社や空港運営会社との連携による誘客促進	継続		●
2	最新技術を活用した情報発信力と分析力の強化を実施する	① 観光 DX 推進による観光客ニーズの把握と共有	新規		●
		② 生成 AI を活用した投稿分析に基づく、効果的な情報発信の実施	新規		●

※1（創生）は第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策

【用語の説明】

サステナブルツーリズム

…環境・地域社会・経済に配慮し、持続可能な観光を目指す取組。

ガストロノミーツーリズム

…食文化や地元の料理を楽しむことを目的とした観光。

アドベンチャーツーリズム

…自然やアウトドアでの体験型・冒険的な活動を楽しむ観光。

スポーツツーリズム

…スポーツ観戦や参加を目的とした旅行や観光。

アートツーリズム

…美術館や芸術イベントなど、アートを楽しむことを目的とした観光。

コンテンツツーリズム

…映画・アニメ・ドラマなどの舞台や関連スポットを訪れる観光。

オーバーツーリズム

…観光客の過剰集中により地域環境や生活に悪影響が出る現象。

ナイトタイムエコノミー

…夜間の飲食・エンターテイメント・文化活動を通じて地域経済を活性化する仕組み。

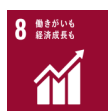
5-2

事業内容

戦略(1) インバウンド観光及びサステナブルツーリズムなどの多様なツーリズム取組戦略

戦術1 インバウンド観光客のニーズに対応した観光推進を行う

項目	内容
背景	2025年の速報値では、インバウンド観光客4,268万人、観光消費額は9.5兆円に達しています。政府の第5次観光立国推進基本計画では、2030年にはインバウンド観光客6,000万人、観光消費額15兆円を目標に掲げる方針を示しています。
施策の概要	網走市は、流氷というオホーツク地域ならではのオンリーワンの観光資源を活かし、その魅力をさらに高めるための新たなコンテンツ開発と情報発信を強化します。また、昼間の観光に加えて夜間の滞在価値を高める体験型コンテンツを充実させ、観光客の満足度と滞在時間の向上を図ります。
施策の方向性	① 地域資源の磨き上げと開発による魅力向上（創生） 自然、歴史、文化、酒造などを活用して、インバウンド観光客にとって魅力的なコンテンツ開発を行います。あわせて海外旅行会社やOTA、ランドオペレーター等に積極的にインバウンド観光客向けのコンテンツ情報を発信します。
	② ナイトタイムエコノミーへの取組強化 網走市は観光客の多くが1泊以下と短期滞在傾向となっています。インバウンド観光客のみならず国内観光客が夜の網走を楽しめることを目的にナイトタイムエコノミーへの取組を強化します。



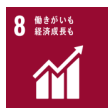
8.働きがいも経済成長も

11.住み続けられるまちづくりを

各目標の詳細は61ページに記載

戦術2 多様なツーリズムへの取組による観光客増を実現する

項目	内容
背景	2023年9月にアドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS2023)が北海道で開催され、北海道においても本格的なアドベンチャーツーリズム時代を迎えました。また世界規模で関心が高いサステナブルツーリズムやガストロノミーツーリズムなど、ツーリズムの多様化が進んでいます。
施策の概要	オホーツクの恵みを受ける網走市の魅力を最大限活用するためには、サステナブルツーリズムを含め、多様化したツーリズムへの取組強化が必要です。自然、食材はもちろん、スポーツ施設、オホーツク文化、芸術など地域資源を活用したツーリズムに取り組みます。あわせて酒蔵が建設される天都山天空の里エリアの魅力向上の取組を推進します。
施策の方向性	<p>① 食資源を活用したガストロノミーツーリズムの推進及び酒蔵を活用した誘客促進</p> <p>第一次産業や飲食店と連携をしたガストロノミーツーリズムを推進します。春力ニ合戦などの既存イベントのブラッシュアップを図り、旅行商品の拡大を行います。また、2026年度に新たな酒蔵が建設されることを機に、新たなイベントの実施や飲食店などと連携をした誘客促進を行います。</p>
	<p>② 自然資源を活用したアドベンチャーツーリズムの推進</p> <p>網走市の競争優位資源である自然資源を活用したアドベンチャーツーリズムのメニュー開発及びプロモーションを行います。あわせて多様な働き方にマッチしたガイド人材の確保を行います。</p>
	<p>③ スポーツツーリズム、アートツーリズム、コンテンツツーリズムの推進（創生）</p> <p>スポーツ施設を活用したスポーツツーリズム、オホーツク文化や芸術作品等の差別化された地域資源を活用したアートツーリズム、網走を舞台にした作品を活用したコンテンツツーリズムの旅行商品造成やプロモーションを推進します。</p>



8.働きがいも経済成長も

各目標の詳細は61ページに記載

戦略（2）高付加価値化による観光消費額向上及び関係人口創出戦略

戦術1 体験プログラムの高付加価値化及び事業者間連携による販売力強化を実現する

項目	内容
背景	一般論として、体験プログラムへ参加する観光客は宿泊率が高いことがわかっています。このことから体験プログラムには、観光客の宿泊を促すと同時に消費額を上げる効果が見込めます。
施策の概要	体験プログラムの開発はもちろん、高付加価値な体験プログラムを開発・販売することにより観光客の消費額を向上させます。また、宿泊プランへの体験プログラムの組み込みや、宿泊施設での飲食店の紹介など、事業者間の連携により双方の売上拡大を実現します。さらに、これらの取組を継続的に推進するため、持続運営可能なマネジメント体制の構築とその支援を行い、地域全体での観光振興を強化します。
施策の方向性	① 体験プログラムの高付加価値化の実現 網走の差別化された地域資源を活用して体験プログラムの高付加価値化を行います。また、インバウンド観光客向けの通訳ガイド付き体験プログラムの開発等を積極的に行います。
	② 事業者間連携による売上の拡大 宿泊事業者と飲食事業者や体験プログラム事業者、宿泊事業者と観光施設や交通事業者など事業者間の連携を促進することにより双方の売上拡大を実現します。



8.働きがいも経済成長も

各目標の詳細は61ページに記載

戦術2 宿泊施設の多様化等を実現して滞在型観光を推進する

項目	内容
背景	網走市は女満別空港が近く道外の観光客における道東の玄関口に位置しています。世界自然遺産・知床にも近く、競争力がある地域と言えます。その一方で、平均宿泊日数が1.2泊と短く、宿泊日数の増加が必要です。
施策の概要	ここ数年続いている宿泊料金の高騰により、宿泊日数の減少が懸念されます。観光客の宿泊日数を延ばすためには、安価な宿泊施設や長期滞在が可能な設備を備えた宿泊施設などが必要となってきます。既存の宿泊施設を活用した滞在日数の増加はもちろん、民泊等の宿泊施設の多様化を実現して滞在型観光地への進化を実現します。
施策の方向性	<p>① 宿泊を伴う滞在型観光への取組強化</p> <p>体験プログラムやナイトタイムエコノミーなど宿泊との相乗効果が見込める取組はもちろん、連泊型宿泊プランの造成などを積極的に行います。オホーツクの滞在拠点都市としての位置づけを観光客や旅行会社等に発信を行います。また、閑散期対策として、シニア層をはじめ、ゆとりのあるターゲットに、滞在日数を伸ばすプログラムの造成、発信を行います。</p>
	<p>② 多様な宿泊スタイルに合わせた宿泊施設の整備</p> <p>網走市内の空き家を民泊施設として積極的に活用し、滞在型観光を促進します。あわせて、民泊施設等の現状把握を行い、地域住民と観光客の双方が安心できる滞在環境を整備します。さらに、新規ホテルの誘致や廃業したホテルの有効活用を進めることで、宿泊受け入れ体制を強化し、地域全体の観光の魅力を高めます。</p>



8.働きがいも経済成長も

各目標の詳細は61ページに記載

戦術3 観光客の販売機会損失を減少するための新たな仕組みを構築する

項目	内容
背景	網走市を訪れる観光客に対して販売機会損失が生じています。特に観光客のニーズに合った昼食場所や団体観光客のサイズに合った食事場所が少ないという声が挙がっています。また、流氷クルーズやあばしりネイチャークルーズの運航中止に伴う販売機会損失は金額が大きなこともあり、代替案が必要となっています。
施策の概要	観光消費額の減少の原因となる販売機会損失に対して新たなシステムの導入や事業投資の促進、代替プログラムの提供を実施します。あわせて流氷ブランドの質的变化を推進することにより、観光客による流氷に関連する消費の拡大を図ります。
施策の方向性	<p>① 新たなシステムによる事業者の販売機会損失の減少</p> <p>一部導入が進んでいる空席ナビ等により、飲食店の販売機会損失の減少に引き続き取り組みます。さらに、流氷クルーズやあばしりネイチャークルーズ等の高単価商品の催行中止時に対応する代替プログラムを造成します。</p> <p>また、販売機会損失をビジネスチャンスと捉え、金融機関と連携して民間事業者への事業投資を促します。</p> <p>② 流氷ブランドの質的变化の推進</p> <p>オホーツク海の流氷という唯一無二の自然資産を核に、ブランド価値を再構築します。従来の「流氷観光＝冬季の自然鑑賞」というイメージを刷新し、若年層や新しいライフスタイルを持つ旅行者のニーズに応える体験型コンテンツを開発します。</p>

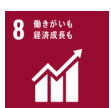


8.働きがいも経済成長も

各目標の詳細は61ページに記載

戦術 4 関係人口の創出・拡大を実現して来訪、非来訪を問わず消費につながる仕組みを構築する

項目	内容
背景	網走市観光協会が毎年実施している網走の魅力発見アンケート結果から観光で訪れたことがきっかけとなり、網走市へのふるさと納税や物産購入を行う動きが確認されています。関係人口を創出・拡大することにより来訪、非来訪を問わず網走市への消費が拡大することが期待できます。
施策の概要	網走の魅力発見アンケートを活用した旅アト消費の仕組み構築を図ります。あわせて関係機関と連携をしてオホーツク網走マラソン参加者をはじめとする網走ファンの関係人口化を促進します。
施策の方向性	① 旅アト消費の仕組み構築によるふるさと納税や物販の拡大 網走の魅力発見アンケートを活用した旅アト消費の拡大を実現します。あわせてデータ分析により観光客の来訪消費と非来訪消費の現状把握を行います。
	② 関係機関との連携による関係人口の創出・拡大（創生） 近隣自治体や関係団体との連携を深め、ラグビー、サッカー、陸上、障がい者スポーツ、芸術文化などの合宿誘致のほか、スポーツ大会、会議等の誘致に取り組み、交流・関係人口の拡大を図ります。
	③ オホーツク網走マラソンをきっかけとした誘客促進及び関係人口の拡大（創生） 全国から高い評価を得ているオホーツク網走マラソンのブランド価値を有効活用した新たな誘客方策を実施します。あわせて、参加者を中心とした関係人口拡大を実現します。



8.働きがいも経済成長も

11.住み続けられるまちづくりを

各目標の詳細は 61 ページに記載

戦略（3）観光受入基盤強化及び宿泊税を活用した持続可能な観光の推進戦略

戦術1 労働力不足や二次交通対策を実施して観光客の快適な環境整備を実施する

項目	内容
背景	網走市の生産年齢人口が減少の一途をたどっています。観光業界が主に属するサービス関連の有効求人倍率は高い水準になっており、労働力不足が大きな課題となっています。またインバウンド観光客増加によるオーバーツーリズムも全国的な課題となっています。
施策の概要	観光産業の人材確保を図り、労働力不足を解消していきます。あわせて、限られた労働力で効率的な成果を出せるモデルを構築し、観光客の快適な環境整備を実施します。さらに、地域内の二次交通の利便性を向上させることで、移動のストレスを軽減し、観光回遊性を高める仕組み（もしくは体制）を整えます。
施策の方向性	<p>① 労働力不足やオーバーツーリズムを解決する新たなモデル構築の実施</p> <p>副業や大学生の長期休暇、シニアバイトなどを活用して、季節変動や曜日変動に対応できる労働力確保モデルを構築します。あわせて労働力確保のための安価な滞在施設の確保を行います。</p>
	<p>② 二次交通対策の継続実施</p> <p>どこバスやタクシー等の二次交通の利便性向上の取組を引き続き実施します。あわせて、ドライバー不足等の課題に対して、交通事業者と連携して解決を図ります。</p>
	<p>③ インバウンド観光客への案内の多言語化の実施</p> <p>SNSでの情報発信の大部分が日本語中心となっています。観光案内所では、英語・中国語以外の言語に対応しきれていない状況になっています。デジタル技術によって、様々な言語に対応した体制を構築し、インバウンド観光客の需要に対応します。</p>



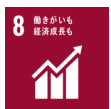
8.働きがいも経済成長も

11.住み続けられるまちづくりを

各目標の詳細は61ページに記載

戦術2 宿泊税の活用などによる観光地づくりを推進する

項目	内容
背景	観光が基幹産業化されている中で観光地域づくりの重要性が増しています。2026年4月より宿泊税の導入が決まり、地域社会及び経済の発展に資する持続可能な観光地域づくりを推進する費用に宿泊税を活用することが可能になりました。
施策の概要	網走市観光協会が地域DMOに登録され、観光地域づくりの重要性がさらに増しています。新たな財源として宿泊税を活用するなど地域DMOを中心とした観光地域づくりを推進します。
施策の方向性	① 観光人材の確保と実践力向上の仕組み構築及びツールの作成 事業者と連携をして観光人材の確保に努めます。また、新たな観光人材の実践力向上のための仕組みを構築します。あわせてツールを作成してスキルの向上を図ります。
	② 持続可能な観光に対する観光客及び住民評価の実施と共有 観光客の評価を把握するために、網走市観光協会が実施する網走の魅力発見アンケートと網走市観光消費動向調査を引き続き実施します。また地域DMOである網走市観光協会の登録更新時に住民向け説明会と意見収集を新たに実施します。
	③ 観光地域づくりを推進する組織体制整備（創生） 新たな財源である宿泊税を活用し、観光地域づくりを推進する網走市観光協会の体制整備及び人材確保を行います。



8.働きがいも経済成長も


11.住み続けられるまちづくりを


各目標の詳細は61ページに記載

戦略（4）広域連携・企業連携及び情報発信力と分析力強化戦略


戦術1 広域連携・企業連携によるプロモーションや鉄道利用の推進を実施する

項目	内容
背景	網走市に多くの観光客を迎え入れるためには、網走市の魅力の増大と情報発信だけでは不十分です。近隣自治体や航空会社、JR北海道、事業者との連携が不可欠です。また道内空港との連携も必要です。
施策の概要	網走観光の玄関口である女満別空港や道内他地域の空港、鉄道利用の観光客に向けた沿線地域の連携によるプロモーション等に取り組みます。
施策の方向性	① 広域連携による観光プロモーションの展開（創生） 各自治体、広域連携 DMO、地域 DMO、女満別空港、釧路空港、帯広空港、石北本線・釧網本線沿線地域、クルーズ船の寄港地などと連携した効果的なプロモーションに取り組み、観光客の誘客促進を図ります。
	② JR や沿線自治体との連携による鉄道利用観光の促進 JR北海道と引き続き連携を図りつつ鉄道利用の旅を楽しむ旅行スタイルの増加を推進し、さらに釧網本線・石北本線沿線地域やJRとの連携により、鉄道利用によるオホーツク観光の魅力を高めます。
	③ 航空会社や空港運営会社との連携による誘客促進 道内空港間で連携し、チャーター便を含む国際線の就航および国内路線の維持・拡大に取り組むとともに、モデルルートの形成や商品造成に取り組みます。また、航空会社や空港運営会社、事業者と連携したプロモーションを実施します。






8.働きがいも
経済成長も



11.住み続けられる
まちづくりを



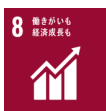
17.パートナーシップで
目標を達成しよう

8.働きがいも経済成長も
11.住み続けられるまちづくりを
17.パートナーシップで目標を達成しよう

各目標の詳細は 61 ページに記載

戦術2 最新技術を活用した情報発信力と分析力の強化を実施する

項目	内容
背景	デジタル技術は観光産業において情報収集、情報発信など多くの場面で活用されています。網走市は流水や監獄など独自性の高い資源を有している為、認知度は高い水準にあります。その一方で訪問意向は低い水準にあり、網走市の魅力ある情報が伝わっていない傾向にあります。デジタル技術を活用することによって、選ばれる観光地としての地位を確立することが可能となります。
施策の概要	デジタル技術の活用によって観光DXを推進し、観光客ニーズの把握・分析を行います。分析した結果は事業者への共有を図ります。
施策の方向性	<p>① 観光DX推進による観光客ニーズの把握と共有</p> <p>デジタル技術を活用し、これまで収集できずにいた網走市のリアルタイム情報を収集・分析します。分析結果をもとに観光客ニーズへの対応と事業者への共有を図ります。</p>
	<p>② 生成AIを活用した投稿分析に基づく、効果的な情報発信の実施</p> <p>近年、動画サイトやSNS等で情報収集と発信をしている観光客が増えています。そうした投稿を分析し、網走市の魅力がより伝わる情報発信を実施します。</p>



8.働きがいも経済成長も

9.産業と技術革新の基盤を作ろう

11.住み続けられるまちづくりを

各目標の詳細は61ページに記載

網走市観光振興計画 2026 施策と SDGs17 の目標との関連性

本観光振興計画についても、特に次のゴールに向けて各施策や取組を進めていきます。



各施策や取組に関連する SDGs17 の目標	
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>働きがいも経済成長も</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を守り、持続可能な経済成長を進める ・すべての人が働きがいと十分な収入のある仕事につく
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強くて丈夫なインフラを整えて、だれもが使えるようにする ・イノベーション（技術革新）で産業の発展を推進する
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>住み続けられるまちづくりを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で、災害に強いまちや人々の住む場所をつくる ・災害などがあっても早く回復できる、持続可能なまちづくりをする
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>パートナーシップで目標を達成しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発に向けて、必要な行動や方法を強化する ・世界中のあらゆる人たちが協力するパートナーシップを充実させる